



▲きのぴーがフレッシュランド西多摩取材して書いた記事から。確かに体当たりだ。



▲まーちゃんが紹介した「みんなのカフェ メリ・メロ」。



▲だいさんが取り上げた「羽村市吹奏楽団」の記事から。

▲音楽とお酒が好きななるさんはライブバー「パーパス」を取材。

と言われる(笑)。夫が市民記者募集のチラシを見て「これをやればもっと良く書けるんじゃないの」と。最近ブログを見てお店に来てくれるお客さんもいて、仕事にも役立つきました。

**だいさん** 始めの育成講座でプロの編集者にタダで教えてもらえるというのが良かった。それに、私は羽村に住んで長いので、羽村の良いところを皆に伝えたい気持ちもあってたんだよね。

で利用したいと思ってもらえる嬉しい。**だいさん** 記事を通してお店の人の顔が見えるから、利用する側のハードルも下がるよね。市民記者の役割の一つだと思ふ。私はスポーツをテーマに書き始め、今は音楽にも広がってききました。取材は楽しいです。入りづらかった店に行けたり、なかなか話ができないう人と話ができたり。羽村は小さいまちで、住民は羽村のことを隅々まで知っているように思っているけれど、意外と知らない良いお店や場所がまだまだある。そういう所を紹介したいな。

**なるさん** 私は音楽に関係する記事が多いかな。でも、イベントやお店だけ取材するのではなく、利用者や周辺の人に話を聞いたりもします。それも楽しい。自分の好きな物事が長く続いて



「だいさん」こと伊藤大さん(メーカー勤務。記者仲間からは編集長と呼ばれ信頼されている。余暇にはランニングやロードバイク、エレクトーンも楽しむ1児のパパ。)



「きのぴー」こと木下智実さん(教員として勤めながら大学で教育に関する研究も行う。趣味はインテリアと家電。レクリエーション・インストラクターの資格も持つ2児のパパ。)



「まーちゃん」こと瀧島麻耶さん(市内で美容室を始めて7年目。10月に「ママの美容室経営術」という本も出版した2児のママ。記事の執筆数はナンバー1!)



「なるさん」こと鳴島タカシさん(青梅市で製造業を経営。趣味は写真。市民記者を始めた頃に趣味を同じくする奥様と出会い、今は1児のパパ。)

羽村の良さを一緒に発信しませんか 羽村市魅力発信市民記者

# 羽村市の魅力をじっくり見つめて 本当の良さを伝えたい

「羽村市魅力発信市民記者」は、平成28年度から活動を始めました。市民が記者となり、羽村市の魅力的な人や場所、物事などを取材して記事を書き、それを「ウェブマガジン『はむらぐらし』」に掲載して発信しています。登録メンバーは、子育て世代を中心に現在12人。それぞれが「はむらの魅力」を記事にしています。今回はそんな「市民記者」にインタビューしました。

**◆応募のきっかけ**  
**きのぴー** もともと書くことが好きで、ウェブマガジンのライターって面白そう、と思って応募しました。仕事で固い文章ばかり書いていたので、自分らしい記事を体当たりで書きたいと思って。

**なるさん** 確かにきのぴーの記事は特に写真が体当たり(笑)。私も文章を書くのが好きなのと、会社を経営しているので情報発信について学びたいと考えたのがきっかけ。それに、自分が住んでいる羽村のことを全然知らなかったたので、こういう場で元気な人と縁ができたらいと思ったんです。

**まーちゃん** 私は、面白そうとかでは全然なくて!! 文章を書くのが苦手で、仕事でブログやフェイスブックを通して情報発信をしているけれど、家族から「何を言ってるのかわからない」

ほしいから、お礼の気持ちをこめて、良いと感じたことを良いと表現していきたい。

**きのぴー** 水をテーマに記事を3本書きました。自分が住んでいるまちの良さを見つけるとワクワクする。今、表面的な情報は溢れているけれど、それをうまく掘り下げて、その本当の良さをじっくり見て伝えることができるのが市民記者だと思っています。

**◆活動の魅力を一言で表現すると**  
**まーちゃん** 「楽しい」。取材も記事を書くのも皆で集まるのも、活動全体が楽しいし、勉強になる。  
**なるさん** 「役に立つ」かな。記事の内容が実際の生活で役に立ってすごいことだと思う。これからも面白い

いがある方へ行き、いろんな人と知り合って、一緒にお酒を飲みたい(笑)。  
**だいさん** 「発見」。知っているように知らない・まったく知らない所に、自分の意志で出かけていって発見する楽しさかな。これからは老後の収入にできるくらいスキルアップしたい(笑)。  
**きのぴー** 「多様性」。これは自分の生き方のキーワードでもある。それぞれの目の付け所が違って、自分にはない視点があって面白い。「え、そこ取材すんの」みたいな(笑)。  
**だいさん** メンバーは面白いくらいバックグラウンドがバラバラ。そんな我々がそれぞれの視点で「人」や「物事」にフォーカスを当てて深さを、記事で出せたらいいと思っています。

## ウェブマガジン「はむらぐらし」記事の作り方

- 編集会議は月1回。自分が取材したい人や場所について相談や報告をします。記事の方向性や内容について提案やアドバイスをし合います。
- 記事の方向性がまとまったら企画書を作成し、取材依頼。取材に行き、記事を書きます。
- 原稿ができたら、記者同士で校正します。
- その後、市の担当者が市公式PRサイトにアップします。
- 記事の本数にノルマなどはありません(1記事2500文字程度)。自分のペースで記事を書くことができます。



▲市民記者が書いた記事がいろいろ載っています。ウェブマガジン「はむらぐらし」QRコード

※赤ちゃん休憩室…市内53カ所に設置された授乳やおむつ替えができるスペース。